

第17回 O. P. I. C. 症例検討会 平成21年10月24日

1) 歯科衛生士の役割について 歯科衛生士学校での講演から 山田 貴子

歯科衛生士の役割について皆さん（これから卒業する学生さん）はどう考えられているでしょうか。保健指導や予防活動などの抽象的な言葉で理解しても実際の臨床現場に出て何をすべきかわかっているでしょうか。皆さんは後数ヶ月すると国家試験に合格し、実際の臨床現場に出て患者さんと接する事になります。

国家試験に合格したからといって、いきなりプロの歯科衛生士になれるものではありません。今日は私たちの歯周病専門診療所の臨床から、歯科衛生士としての役割についてお話しします。私たちが考える歯科衛生士の役割は以下の3つです。

- 1) 歯科医と共に患者さんの病気を治すこと
- 2) 自己の知識の技術を高めること
- 3) 後進の歯科衛生士の育成に努めること

1番目の“歯科医と共に患者さんの病気を治すこと”ですが、多くの歯科衛生士さんは病気を歯科医が治し、歯科衛生士はそのアシスタントをしようと思っている方がほとんどです。これは間違いです。歯を失う原因の第1位は歯周病です。歯周病の7割は初期段階でこれらは歯科衛生士が行うプラークコントロール治療で治せます。しかし、一般の歯科では歯周病の検査が日常的に行われず、初期の段階の歯周病を見落とすことが多いのです。これからは当医院のような歯周病の専門院が増えてきます。皆さんの活躍できる職場は増えるでしょう。歯科衛生士は歯科医とともに歯周病など病気を治すことが最も大切な仕事です。

2番目の“自己の知識の技術を高めること”これは常に自己の研鑽を行い、目標を持って日々診療に当たることです。そうでないと卒業したままの知識のまま、あっという間に5年、10年を過ぎてしまいます。歯周病やインプラントなどの各種学会に積極的に参加し、専門歯科衛生士資格の取得などの目標を持って、常に自己の能力を高める努力をし、そしてそれらが可能な環境に身を置くことが大切です。

3番目の“後進の歯科衛生士の育成に努めること”ですが、皆さんの後輩にはすでに2年生と1年生の学生さんがいます。彼女たちから見れば皆さんは先に臨床現場に出る先輩です。歯科衛生士は一生できる仕事です。患者さんと共に病気を治しその喜びを感じることができるすばらしい職業です。

そのすばらしい職業である歯科衛生士になりたいと思う子供たちが今後増えるように、そして社会からよりより認知される仕事になるように、皆さんはがんばってもらわねばなりません。皆さんの今後の進むべき道しるべとして参考になれば幸いです。

2) 小学校低学年・高学年の歯科保健指導における実際

担当小学校の口腔衛生指導から

入江 舞

『小学校低学年』

はじめに、小学校低学年歯科保健指導についてです。(小学校1年生の児童対象)

歯の役目は3つあります。知っていますか？

1つ目は、食べ物を咬んで小さくして食べ物を飲み込みやすくします。

2つ目は、言葉を正しく発音するための役割です。歯はしゃべるためにも大切です。

3つ目は、顔の形を整える役割をします。歯がないと、口元が“しわしわ”になってしまいます。このように歯にはとても大切な役割があります。また歯のそれぞれ一本一本にも役割があって、前歯は食べ物を引き千切り、奥歯は噛み砕き、食べ物を粉々にして、飲み込みやすくします。

みんなぐらゐの歳になると、大人の歯が生えてきます。6歳ぐらゐから、子どもの歯の後ろに、大人の歯がはえてきます。人間の歯の中で、一番大きな歯で、大切な役割があるので、歯の王様と呼ばれています。今、みんなのお口の中の歯の王様は、はえてきたばかりなので、他の歯よりも背が低く、ハブラシが届きにくいので、むし歯になりやすくなっているのです。(ビデオを見て説明)

むし歯菌がむし歯を作るには、お砂糖がいります。むし歯菌はお砂糖が大好きなのです。ジュースの中にも砂糖が入っています。例えば、みんなのよく飲むコーラとポカリスウェット、CCレモン、なっちゃん、お茶の砂糖の量を見ていきましょう。どのくらい入っていると思いますか？ コーラには、角砂糖16個分の量の砂糖が入っています。カルピスにも、同じ16個分。なっちゃんは、14個分、ポカリスウェットには、10個分入っています。このように、ジュースにもたくさんのお砂糖が入っています。ジュースを飲んだ後にも歯磨きは大切なことが分かりますね。(演劇でばい菌退治)

『小学校高学年』

どうしてむし歯になるのでしょうか？

食べ物を食べて、長い時間歯を磨かず、歯に汚れが付いたままにしていると、むし歯菌が歯についている汚れを変化させて、プラークという家を作ります。1gのプラークの中に、100億のむし歯菌がいます。その家の中で、むし歯菌は歯を溶かしてしまう酸を作ります。これが、むし歯の始まりです。

むし歯を作らないようにするには、どうしたらいいのでしょうか？

歯みがきと、正しい食生活が大切です。ハブラシで、プラークというむし歯の家を壊して、きれいに歯を洗ってしまうことが、むし歯菌から、みんなの歯を守るたった一つの方法です。

正しい食生活をしていると、歯はむし歯になりにくいのですが、朝ごはんの後、お菓子を食べて、お昼ご飯の後、ジュースを飲んで、飴を舐めて、夕ご飯を食べて・・・こんな風にだらだらと食べて、ずっとお口の中にむし歯菌の栄養があると、ずっとむし歯菌が元気なのでむし歯ができやすくなってしまいます。

一番、虫歯ができる時間は、みんなが寝ている時です。

お夜食を食べてそのまま寝てしまったりすると、絶対に虫歯になります。

だらだら食わず、正しい食生活と食後の歯磨きを心がけるようにしましょう。

サメの歯は、何度もはえ変わりますが、人間の歯は2回しかはえ変わりません。

最初に生えてくるのが、子どもの歯。乳歯と呼んでいます。

子どもの歯の下から生えてきて、子どもの歯と交代するのが大人の歯です。大人になっても、おじいちゃんやおばあちゃんになっても一生使ってほしい歯なので、永久歯と呼んでいます。

みんなのお口の中は今、交代期間中です。

子どもの歯は小さいし、大人の歯に比べて、エナメル質という歯を守っている部分が薄いので、すぐにむし歯になってしまいます。

いつかは大人の歯と交代する歯ですが、むし歯をそのままにしておくと、歯並びが悪くなったり、ばい菌が歯の根っこから、骨の中まで入って、骨の中にある大人の歯の色や形を変えてしまいます。子どもの歯のうちから、大切にしてください。

自分のお口の中を見てみましょう。

虫歯菌がプラークという家を作りやすい所は、歯と歯の間や、歯の溝、歯の裏側です。

これを落としていくのが、歯磨きです。歯磨きをするときは、一筆書きをするように磨くと磨き残しをなくすことができます。自分の歯を守るのは自分だけです。しっかりと歯磨きをして、きれいな歯を守りましょう。

3) プラークコントロールの改善度と患者の各種特徴との関連について

日本臨床歯周病学会での発表から

森川 紗里

緒言：歯周病治療を進める上で“患者さん”に高い清掃レベルを維持してもらうことは非常に重要です。これはブラッシング指導という単純な物ではなく、患者さんの日常生活の中での意識改善をも含めたもので、プラークコントロール（以下 PC）と呼ばれます。この PC の確立が歯周病の治療の成否を握っています。そのため PC の確立に携わる私たち歯科衛生士の役割は非常に大切です。今回、当センターの歯周病科にて治療した30名の患者のデータから PC の改善度と患者の各種特徴との関連を検討し興味ある知見を得たので報告します。

方法：当センター歯周病科にて治療を行った30名の患者を対象とし、清掃指導後の PC の改善度と患者の特徴を比較検討した。PC の改善度はオレリーの4面法にて Plaque Control Record (以下 PCR) 検査を行い、1回目の PC 後の清掃指導によって改善した2回目の PCR 値から判断した。また1回目の PCR 値と2回目の PCR 値から改善率を算出し判定した。有意差の検定はマン・ホイットニーの U 検定を用いて行った。

比較検討した患者の特徴は、男女差、年齢差、指導衛生士の経験年数、初診時の主訴、アポイントの時間を守るか否か、歯間ブラシの使用経験の有無、の6項目であった。

結果：

- 1) 女性は男性より有意に改善度がよかった。
- 2) 50～60代は30～40代より改善度はよかったが有意差は見られなかった。
- 3) 担当歯科衛生士の経験年数によって違いは見られなかった。

- 4) 歯周病が主訴の患者の方が、歯科治療が主訴の患者よりも改善度はよかったが有意差は見られなかった。
- 5) 予約時間に遅れない患者は改善度も有意によかった。
- 6) 歯間ブラシの使用経験のある患者の方が改善度は有意によかった。

考察： 歯周治療におけるプラークコントロール（以下P C）の重要性は皆知るところです。“患者さん”に早く、確実にP Cを確立してもらうようにするためには、それぞれの患者の性格や考え方をよく理解して、それに沿ったアドバイスが必要です。本発表が皆さんの明日からのP Cに少しでも役立てば幸いです